

令和3年3月31日
文部科学省
大臣官房文教施設企画・防災部
計画課整備計画室

「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（案）」に関する
パブリックコメント（意見公募手続）の結果について

「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（案）」について、令和3年3月5日から令和3年3月14日までの期間、広く国民の皆様から御意見の募集を行いましたところ、合計5件の御意見をいただきました。

今回御意見をお寄せいただきました多くの方々の御協力に厚く御礼申し上げます。

いただいた主な意見の概要及びそれに対する文部科学省の考え方は別紙のとおりです。貴重な御意見をお寄せいただき、厚く御礼申し上げます。

1. 意見募集の概要

意見募集期間：令和3年3月5日（金）から令和3年3月14日（日）

実施方法：電子政府の総合窓口（e-Gov）

意見提出方法：e-Gov 意見提出フォーム

2. 意見受付総数

5件

※なお、本件意見募集とは直接関係のない御意見については、今後の参考とさせていただきます。

3. 意見の概要とそれに対する考え方

別紙に記載。

(別紙)

「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画(案)」に対して
寄せられた意見の概要及び意見に対する考え方について

No.	提出意見	御意見に対する考え方
1	<p>全体として、大学を「活用」という方向性は読み取れるものの、そこに集まる「多様な学生」、そして学外の「様々なステークホルダー」の人権に配慮するという視点が見られない。バリアフリー／ユニバーサルデザインを重視することはもはやいわずもがなとはいえ、明記すべきであろう。人権と施設整備に関わる論点としてさらにトイレの整備という課題がある。鳥取大学での取組例 https://www.tottori-u.ac.jp/item/17370.htm に加えて、国際基督教大学にはそれを深化させるような事例 https://news.yahoo.co.jp/articles/7c1f0237c9404d56b3e95b64ac4d83083eab496f が見られる。国立大学が国際標準の人権意識を体現する場となることが、ここで謳われている「クリエイティブ・コモンズ」実現の前提であろう。文科省としてそのような方向性をここで明示することが必要ではないだろうか。</p>	<p>多様な学生や様々なステークホルダーの人権に配慮するという視点を取り入れるため、「次期国立大学法人等施設整備計画策定に向けた最終報告」(令和2年12月 今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議)を参考として、計画本文の3ページ目に「多様な人材がキャンパス内で活動しやすいよう、バリアフリーなどを含めたダイバーシティに配慮した施設整備」を推進することを追記しました。</p>
2	<p>障害のある学生、修学支援についての言及して欲しいです。</p>	<p>同上。</p>
3	<p>障害学生の教育、アフターマティブアクションに力を入れて欲しい。筑波技術大学などの特別支援学校の延長、あるいは「特例子会社」のような学校だけではなく、大きな国立大にこそ障害学生が学ぶ場を求められるべきである。社会事業大学で以前掲載されていた学生インタビューで「情報保障がしっかりしているのでこの大学を選びました」といった記述があったが、情報保障の有無で進学先や専攻を選ぶべきではないと考える。また、障害のある学生は学ぶスピードが定型発達者より遅いこともしばしばである。このため積極的に長く学べる場を提供するのは国の役目であるとする。また、聴覚障害者のための手話通訳養成機関は現在厚生労働省の国立障害者リハビリテーションセンター学</p>	<p>同上。</p>

	<p>院以外は地域の社会福祉協議会などが担っている。昨今、手話通訳者と高い技術のニーズは、地方自治体の会見に手話通訳をつけることが増え、電話リレーサービスでも高まっているが、手話通訳者養成と手話通訳の技能評価、日本手話という言葉についての研究はほとんど大学で取り組まれていない。これに対応できる場を国立大学が提供することが望ましいと考える。</p>	
4	<p>老朽化・耐震化の対策には金は惜しまず、迅速にやってください。</p>	<p>計画本文の3ページ目に、今後の施設整備の方向性として「老朽改善の加速化」を図ることを記載しており、引き続き、整備目標を定めて老朽改善整備に取り組んでいくこととしています。</p>
5	<p>2ページ目、「共創」のような怪しい言葉を使わないよう求める。また、「イノベーション・commons」という言葉も使用について再度検討されたい。(その様な言葉については、一般に、使用を避けるべきであると考え。)(なお、大学については、問題ある者の侵入についてはちゃんと阻めるようであるのが適切と考える。わりと、かなり、スパイ行為を加担しているのではないかとと思われるような、怪しげな人間が大学構内にいたりするのであるが、その様な人間の侵入が発生しないようにするのが適切と考える。)</p>	<p>「イノベーション・commons」や「共創」といった言葉は、「次期国立大学法人等施設整備計画策定に向けた最終報告」(令和2年12月 今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議)において提言された重要なキーワードであるため、原案通り使用します。</p>